

## メディアリリース

2017年2月14日

本資料は2月14日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版です

## クレディ・スイス、2016年第4四半期及び2016年通期業績を発表

2016年の利ざやの上昇に伴う堅調な資金流入は、ウェルス・マネジメントのプラットフォームの堅調さ、多様性及びスケールメリットを際立たせました。2016年の新規純資産は285億CHF<sup>1</sup>となり、運用資産は前年比8%増の7,340億CHF<sup>1</sup>と過去最高を記録しました。

インベストメント・バンキング&キャピタル・マーケッツ部門(BCM)の収益は2012年以来、第4四半期として最高水準を記録しました。ECMとDCMを通じた取引量の大幅な増加は2017年1月に入っても持続しています。

グローバル・マーケッツ部門(GM)では、規模適正化が順調に進み当四半期でほぼ完了したことで、2017年1月の力強いスタートにつながり、さらなる好転に向けた体制が整いました。

ルックスルーCET 1比率は、住宅ローン担保証券(RMBS)をめぐる米司法省との和解後で11.6%(和解前は12.5%<sup>2</sup>)となり、2015年10月に新戦略と同時に発表した2015年第3四半期のCET 1比率の10.2%と比べて140bp改善しました。

ルックスルーCET 1レバレッジ比率は、RMBSをめぐる米司法省との和解後で3.3%(和解前は3.5%<sup>3</sup>)となり、2015年10月に新戦略と同時に発表した2015年第3四半期のCET 1レバレッジ比率の2.8%と比べて50bp改善しました。

## ハイライト

- ・ 税引前利益は、当四半期が19億300万CHF、2016年通期では19億6,600万CHFでした。
- ・ 調整後ベース\*税引前利益は、当四半期が1億7,100万CHF、2016年通期では6億1,500万CHFでした。
- ・ 株主帰属純損失は、当四半期が23億4,700万CHF、2016年通期では24億3,800万CHFでした。
- ・ 2016年通期のコスト削減純額は19億CHF<sup>4</sup>となり、その結果、調整後ベース\*営業費用合計は、一定の為替レートで測定した場合は194億CHF、実際の為替レートで測定した場合は191億CHFとなり、2016年末の目標であった198億CHF未満を達成しました。
- ・ ストラテジック・リゾリューション・ユニット(SRU)では不良債権の削減が大幅に進み、2016年末時点のリスク加重資産とレバレッジ・エクスポージャーはいずれも米ドルベースで前年末比39%減少しました。

## 中核事業で好調が続く

- ・ 2016 年通期の新規純資産は前年比 58%増の 285 億 CHF<sup>1</sup>と堅調であり、調整後ベース\*粗利益率は 114bp<sup>5</sup> 上昇しました。これは、ウェルス・マネジメント事業の規模と多様性による強さが示された形となりました。ウェルス・マネジメント事業の 2016 年通期の運用資産は前年比 8%増の 7,340 億 CHF<sup>1</sup>と過去最高を記録しました。
- ・ 2016 年通期の新規純資産の内訳は、新興欧州・中東・アフリカ地域が前年比 13%増の 143 億 CHF、アジア太平洋地域が前年比 10%増の 146 億 CHF (2016 年第 4 四半期における 7 億 CHF の資金流入を含みます。)、欧州が前年比 4%増の 42 億 CHF (インターナショナル・プライベート・クライアントを含みます。)でした。当四半期のスイスと中南米地域の新規純資産は減少しました。これは主に、スイス国内でクレディ・スイスが協働する外部資産運用会社の数を積極的に削減したことと、中南米及びスイスの両地域で規制強化による資金流出があったためです。
- ・ ウェルス・マネジメント事業に注力するスイス・ユニバーサル・バンク部門 (SUB)、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門 (IWM)、アジア太平洋部門 (APAC) は好調でした。2016 年通期の調整後ベース\*税引前利益は、SUB が前年比 9%増 (Swisscard<sup>5</sup> を除きます。)、IWM が前年比 9%増でした。APAC のウェルス・マネジメント及び関連事業<sup>6</sup>を合わせた 2016 年通期のプロフォーマベースの税引前利益は前年比 65%増となりました。
- ・ IBCM の業績も堅調で、2016 年通期の純収益は米ドルベースで前年比 8%増となり、主力商品<sup>7</sup>全般で市場シェアが拡大しました。当四半期の調整後ベース\*純収益は 5 億 6,900 万米ドルと、2012 年以来、第 4 四半期として最高水準を記録しました。IBCM の 2016 年通期の調整後ベース\*税引前利益は、米ドルベースで前年比 219%増加しました。
- ・ GM の規模適正化はほぼ完了し、大規模な組織改革が実施された年度において、同部門の 2016 年通期の調整後ベース\*税引前利益は 2 億 8,400 万米ドルでした。2016 年通期の収益が 55 億 7,500 万米ドルであったなかで、営業レバレッジの改善がみられました。

## 脚注

- \* 調整後業績は、非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 財務指標に対する調整後業績の差異調整については、2 月 14 日に発表された英語版メディアリリースの Appendix における調整項目の調整後数値をご参照下さい。
- <sup>1</sup> SUB、IWM、APAC のウェルス・マネジメント事業に関連するものです。
  - <sup>2</sup> RMBS 事業をめぐる米司法省との最終和解の影響を考慮しないルックスルーCET1 比率は、当四半期に計上した引当金の約 20 億米ドル、及び当四半期に増加したオペレーショナル・リスクのリスク加重資産における約 7 億 CHF を除外しています。
  - <sup>3</sup> RMBS 事業をめぐる米司法省との最終和解の影響を考慮しないルックスルーCET1 レバレッジ比率は、当四半期に計上した引当金の約 20 億米ドルを除外しています。
  - <sup>4</sup> 2016 年通期の純コスト削減は、2015 年通期の「為替レートを一定とした場合の調整後ベース営業費用」の 212 億 CHF と、2016 年通期の「為替レートを一定とした場合の調整後ベース営業費用」の 194 億 CHF との差額を表します。「為替レートを一定とした場合の調整後ベース営業費用」には、全ての開示情報で示されるリストラクチャリング費用(2015 年通期は 3 億 5,500 万 CHF、2016 年通期は 5 億 3,900 万 CHF)、主な訴訟費用(2015 年通期は 8 億 2,000 万 CHF、2016 年通期は 24 億 700 万 CHF)及びのれん減損(2015 年第 4 四半期に 37 億 9,700 万 CHF)の調整、並びに為替調整(2015 年通期はマイナス 3 億 1,800 万 CHF、2016 年通期はマイナス 2 億 9,300 万 CHF)を含みます。
  - <sup>5</sup> Swisscard の純収益の 1 億 4,800 万 CHF、及び SUB ウェルス・マネジメント事業の 2015 年の営業費用の 1 億 2,300 万 CHF を除外した調整を行っています。
  - <sup>6</sup> APAC のウェルス・マネジメント事業、APAC の引受及びアドバイザー業務、並びに超富裕層、起業家及び法人顧客を対象としたファイナンス事業を含みます。APAC のウェルス・マネジメント及び関連事業のプロフォーマベースの数値は、暫定予想値に基づいています。
  - <sup>7</sup> 出典: Dealogic、2016 年 12 月 31 日現在。